

お問い合わせ

当社製品の販売やOEMを希望されるお客さまは、
以下連絡先よりお問い合わせ下さい。

株式会社便利堂 商品販売事業
(平日 10:00 ~ 17:00)
Tel 075-223-8902
Fax 075-231-2561
e-mail: marketing@benrido.co.jp



写真と暮らす

目で味わうプリント：コロタイプ



BENRIDO

COLLOTYPE MINI PORTFOLIO series



KYOTO **B**ENRIDO
www.kyotobenrido.com



京都便利堂 **BENRIDO, Inc.**

Published in 2025 by Benrido, Inc.

©2025 images by the artists; ©2025 texts by Benrido, Inc.

302 Benzaiten-cho, Nakagyo-ku, Kyoto City, 604-0093, Japan

info@benrido.co.jp www.benrido.co.jp



写真と暮らす

目で味わうプリント：コロタイプ



コロタイプならではの表現力で
手軽に写真作品を楽しもう！

コロタイプとは、19世紀中頃にフランスで発明された顔料による写真プリント技法。その独特な表現力が、今再び写真の表現技法として注目を集めています。便利堂は、カラーコロタイプを継承する世界で唯一の工房です。昔と変わらない職人の技と感性に支えられて一枚一枚、手作業で丹精込めて仕上げられています。

コロタイプ ミニポートフォリオシリーズ

ポートフォリオとは"作品集"のこと。京都便利堂のミニポートフォリオは、国内外の著名な写真家の作品をコロタイプならではの味わいで楽しんでいただけるシリーズです。プリントサイズは8×10inch(20.3×25.4cm)。1枚ずつ手にとって鑑賞していただくのはもちろん、ぜひお気に入りの作品を見つけてインテリアに取り入れてください。

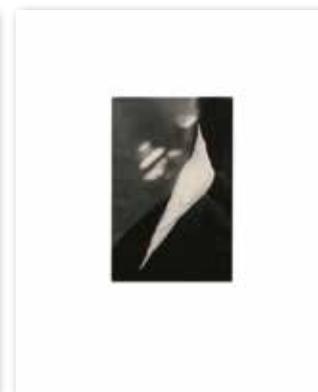


山本昌男 (1957-)

愛知県生まれ。16歳より写真をはじめ、のちに油絵にも取り組んだのちに、写真技法での作品発表に至る。1994年のサンフランシスコの初個展を皮切りに国内外での発表を活発に行っている。古写真のような色合いと質感は、日本人ならではの精神性、美意識と国際的に高く評価されている。



どこか懐かしい色合いと質感
静謐なイメージは和の薫りも感じさせます。



2020年制作
6点のカラーコロタイププリント
¥8,800 (税込)



山本昌男 鳥

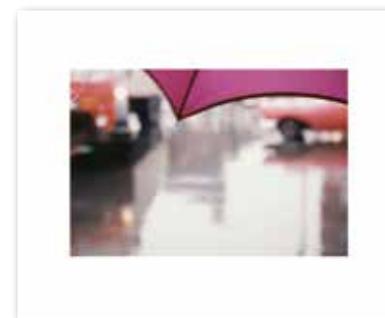
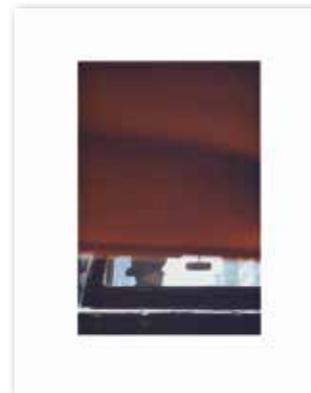
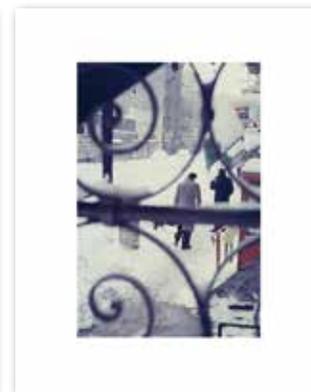
古写真のような色合いと質感、そして日本人の精神性や美意識によって国際的に高く評価されているのが山本昌男です。本作品は、山本が制作してきた《鳥》のイメージに焦点を当てたセレクションとなっています。過去に発表された作品から作家自らが選び、便利堂の工房にてオリジナルにできるだけ忠実になるように制作しました。

Saul Leiter Selected Works

Saul Leiter ソール・ライター (1923-2013)

米ペンシルベニア州生まれ、1950年代からNYを拠点にファッションカメラマンとして長く活躍。2006年、初の写真集『Early Color』が刊行されるや「巨匠の再発見」と熱狂的に受け入れられ、83歳にして一躍世界的に脚光を浴び各国で展覧会が開催されている。

ニューヨークの空気が
空間にエネルギーをチャージしてくれます。



2020年制作
6点のカラーコロタイププリント
¥10,450(税込)



ソール・ライター Selected Works

アメリカの写真家であるソール・ライターが1950年代から60年代にかけて撮った作品の中から選んだ作品で構成したポートフォリオです。これは、東京と京都で開催されたライターの「フォーエバー・ソール・ライター」展の開催を機に制作したもので、天性の色彩感覚によって「カラー写真のパイオニア」と呼ばれたライターの作品を堪能することができます。

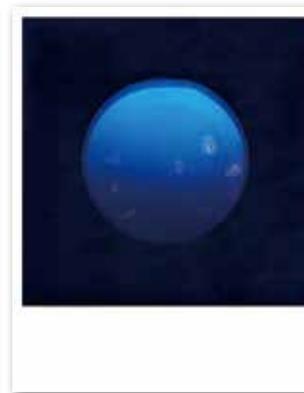
Rinko Kawauchi Early Works 1997

川内倫子 (1972-)

滋賀県生まれ。2002年『うたたね』『花火』(リトルモア刊)の2冊で第27回木村伊兵衛写真賞を受賞。09年にICP(International Center of Photography)主催の第25回インフィニティ賞芸術部門受賞、13年に芸術選奨文部科学大臣新人賞(2012年度)を受賞。



気に入ったアートを飾ること。
それは自分らしさを演出すること。



2021年制作
6点のカラーコロタイププリント
¥13,200(税込)



川内倫子 Early Works 1997

1997年、第9回ひとつぼ展(現I_WALL)の写真部門でグランプリを受賞した川内倫子は、その翌年に東京のガーディアン・ガーデンにて個展を開催しました。1998年に行われたその個展では、川内の最初期の作品集『うたたね』(2001)の前身となった写真が展示されましたが、その時の作品の多くがこれまで一度も作品集に含まれることなく、また展示もされませんでした。このポートフォリオは、その当時の作品をコロタイププリントとして新たに制作したものです。

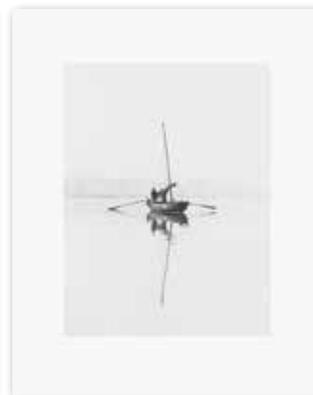
Fan Ho Selected Works

モノクロームの吸い込まれるような陰影と奥行きが
 リラックスする空間に整えてくれます。



何藩 ファン・ホー (1931-2016)

上海生まれ。幼い頃から父親のカメラで写真を撮り始める。1949年に家族と共に香港に移住。路地、スラム街、市場など、当時大都市圏になりつつあった1950年～60年代の香港を記録した重要な作品集を生み出した。1958年から65年までアメリカ写真協会によって「世界のトップ10写真家」の一人に選ばれた。

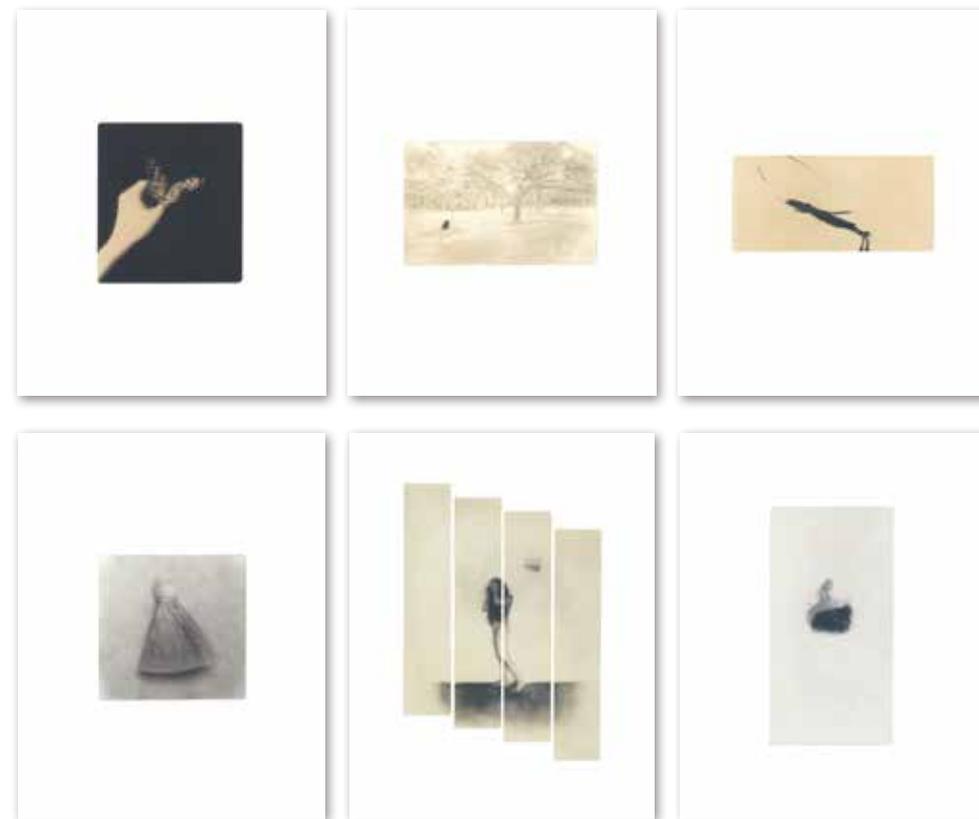


2022年制作
 6点の白黒コロタイププリント
 ¥8,800 (税込)



ファン・ホー Selected Works

ファン・ホーは、1949年に上海から香港に住み移り、以来、香港の街並みを撮影し続けてきました。第二次世界大戦後、香港は英国の植民地となり、めざましい経済的發展を遂げていきましたが、ホーが撮影した写真には、当時の香港の街並みとそこに生きる人々の日々の姿が写し出されていました。そのどこか懐かしい気持ちにさせられるイメージは、チェコの伝説的写真家として知られるヨゼフ・スーデックを思わせる独特の質感と哀愁を帯びた写真です。このポートフォリオは、ファン・ホー財団と香港のBlue Lotus Galleryの協力を得て実現しました。



白石ちえこ 島影

白石ちえこの《島影》は、日本周辺の島々や沿岸地域で撮影されたさまざまなイメージによるシリーズです。これらの作品はすべて1920年代から30年代にかけて日本のアマチュア写真家の間で流行した“雑巾がけ”として知られる古いレタッチ技法によって制作されました。それぞれのイメージは色褪せた記憶を呼び起こすとともに、撮影者自身の記憶を辿るように画像の中に現れては消え、ぼんやりとした記憶を背景に淡いシルエットとして佇んでいます。

白石ちえこ (1968-)
 神奈川県生まれ、1990年代後半より写真家として活動をスタートし、近年はフランス・パリで個展を開催するなど今後さらなる活躍が期待される。2023年度便利堂 Hariban Award 審査員賞受賞。



2023年制作
 6点の白黒コロタイププリント
 ¥8,800 (税込)



かじおかみほ ミライの記憶

現在パリを拠点にしている、かじおかみほの作品は、基本的にはスナップショットをベースにして制作されています。彼女はどこにでもカメラを持ち歩き、面白いと思ったものを直感的に撮影し、そのようにして撮りためたイメージを緻密な暗室作業によって詩的なイメージを創り出しています。かじおかは自分を写真家としてよりも画家として位置づけており、自身初となるコロタイプによるポートフォリオ《memories of future (ミライの記憶)》は、「少女と女性」というテーマを軸にしてセレクトされ、セピア色の儚くイメージが自身の記憶を辿るように浮かび上がっています。

かじおかみほ (1973-)
 岡山県生まれ、サンフランシスコで絵画を学んだのちに、モンリオールで絵画と写真を学ぶ。現在はパリを拠点にしながら、主にヨーロッパにおいて展示と作品集の出版を行なう。



2023年制作
 6点の白黒コロタイププリント
 ¥8,800 (税込)

Sakiko Nomura Träumerei **NEW**

*このポートフォリオには、作家によるユニークプリント1点とコロタイププリント10点を加えた特別版(限定15部)があります。



野村佐紀子 トロイメライ

《Träumerei トロイメライ》は、上下に二つのイメージが一つになった作品と、野村の出身地である山口県下関で撮られた花の静物写真とで構成されたポートフォリオです。タイトルはドイツの作曲家シューマンのピアノ曲でも知られ、「夢」または「夢想」を意味する単語です。今回の6点は旅の記憶や親密さが混在しながら、どこか白昼夢のようなイメージが連想させるのが特徴となっています。作品のタイトルとなっている都市の名前ですが、必ずしも二つの写真がそこで撮られたのではなく、今回のポートフォリオを作る時に野村が組み合わせた作品に対して付けたタイトルとなっています。

2024年制作
6点の白黒コロタイププリント
¥8,800(税込)



野村佐紀子 (1967-)

山口県生まれ。九州産業大学芸術学部写真学科を卒業後、1991年より荒木経惟に師事。在学中から男性のヌードを被写体とし、これまで国内外で200を超える個展やグループ展を行っている。

Koji Onaka Slow Boat **NEW**



尾仲浩二 Slow Boat

《Slow Boat》はこれまで自主ギャラリー「街道」を中心として活動を行い、独自の世界観を展開してきた尾仲浩二が、1983年から1999年の間に日本各地を旅しながら撮影したシリーズです。写真集の表紙でも使われた蝶々の作品、屋形船や浜辺の花火、波止場、雪の降る町、猫好きならではの目線で撮られた作品など全6点を収録。もともとの銀塩写真とは風合いが異なる暖かみのある紙を使い、この写真家の記憶を辿るようなノスタルジックな色調のコロタイプで制作しました。

2024年制作
6点の白黒コロタイププリント
¥8,800(税込)



尾仲浩二 (1960-)

福岡県生まれ。1982年東京写真専門学校を卒業後、森山大道ら写真家たちによる自主運営ギャラリー「CAMP」などの活動を経て、88年にギャラリー「街道」を開業。日本各地を旅し活動を続ける。



柴田敏雄 日本典型

柴田敏雄の代表作である《日本典型》は、コンクリートで固められた日本の山あいなどにある擁壁や砂防ダムを構成的な画面で捉えたシリーズです。日本の高度な土木技術によって作られたこれらの壁やダムは、目をみはるほどの均整美でありながらも、その一方で自然と相容れない人工物であり、それはある意味「近代日本の風景」を象徴するものです。今回のポートフォリオは1989～90年に新潟、福島、宮崎、栃木で撮影された6点をコロタイプで制作。銀塩プリントとは異なる風合いの作品をお楽しみください。

2024年制作
6点の白黒コロタイププリント
¥8,800 (税込)



柴田敏雄 (1949-)

東京都生まれ。1974年、東京藝術大学大学院油画専攻修了。翌年セント市立アカデミー写真学科へ入学し本格的に写真家の道へ進む。92年、MOMAで開催された「New Photography 8」に選出される。



牛腸茂雄 Selected Works

牛腸茂雄は、幼少時に胸椎カリエスを患って成長が止まり、背中が曲がる身体的なハンディキャップを負っていました。桑沢デザイン研究所にて写真を大辻清司に学び、その後は闘病しながら撮影を続け、生前に3冊の写真集を出版しました。牛腸作品の特徴として子供を撮ったスナップショットが多いことが挙げられますが、このポートフォリオにも子供の作品を軸に、初期の《日々》から1点、代表作である《SELF AND OTHERS》から4点、そして《幼年の時間(とき)》から1点をセレクトし、牛腸作品としては初のコロタイプ作品として制作しました。

2022年制作
6点の白黒コロタイププリント
¥8,800 (税込)



牛腸茂雄 (1946-1983)

新潟県生まれ。1978年、写真集『SELF AND OTHERS』と展覧会により日本写真協会賞新人賞受賞。83年、心不全のため死去。享年36歳。2000年には佐藤真監督によるドキュメンタリー映画が公開。



2023年制作
7点の白黒コロタイププリント
¥9,900(税込)

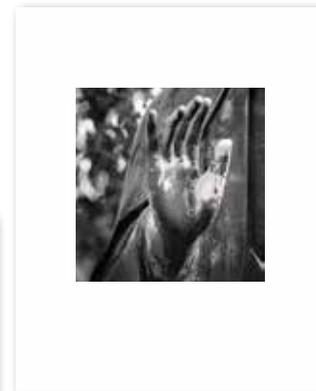
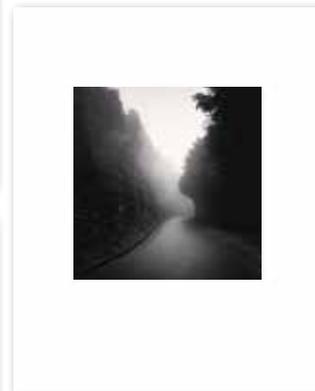
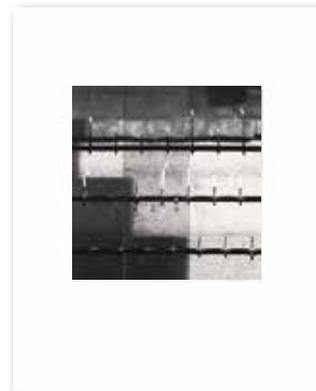
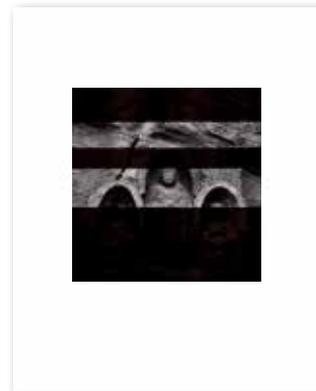
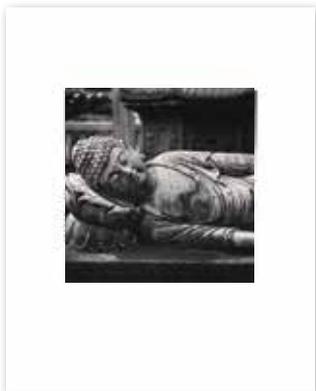
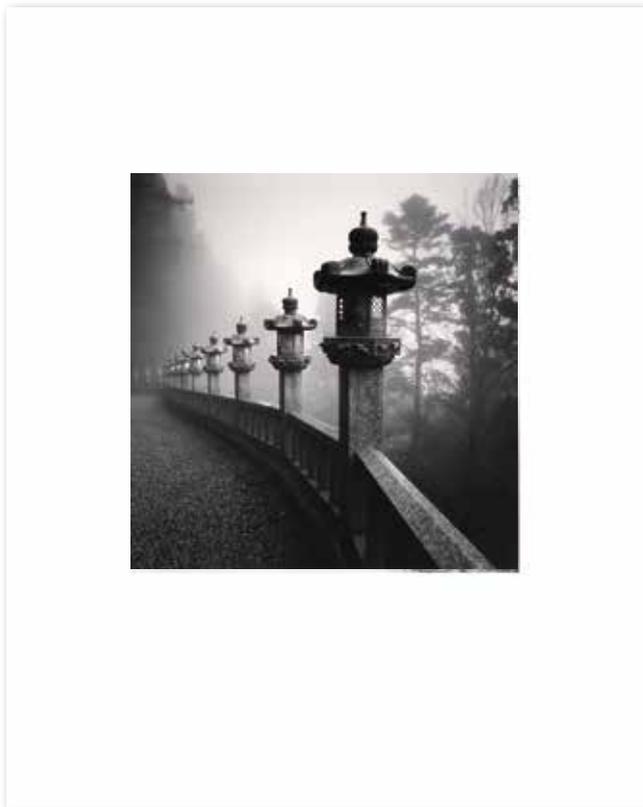
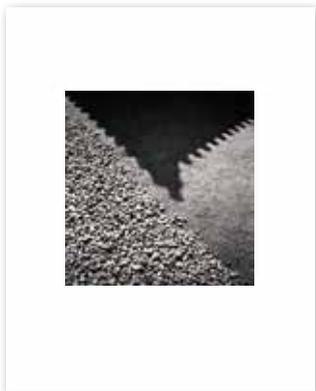


マイケル・ケンナ 北海道 2020

繊細なモノクロームの風景写真で知られる英国人写真家マイケル・ケンナは、毎年のように北海道を訪れ、雄大な大地を覆う雪、柵や杭、あるいは名もない木や防風林などをモチーフにし、それぞれの場所に記憶された人の痕跡や見えないものを撮影しようとしています。今回のポートフォリオはすべて2020年に撮られたものを7点セレクトしました。ケンナとしては初となるコロタイプのプリントとなり、「侘び」が感じられる独特の風合いの表現となっています。

Michael Kenna マイケル・ケンナ (1953-)

英北西部ランカシャー生まれ。ロンドン芸術学校で学んだ後、1970年代にアメリカへ移住し現在はシアトル在住。日本を好んで題材にしながら、豊かな詩情を湛えた作品は世界的に高い評価を得ている。これまで70以上に及ぶ世界中の美術館に所蔵され数多くの写真集を出版した。



2024年制作
8点の白黒コロタイププリント
¥9,900(税込)



マイケル・ケンナ 四国

本シリーズは、弘法大師（空海）ゆかりの八十八ヶ所の霊場をたずねて四国を巡拝する「お遍路」を題材にしています。お遍路は、すべての行程を通して歩くと、全長約1400キロメートル、40日以上はかかると言われていますが、ケンナは2003年から現在まで幾度となく四国に渡って多くの霊場をめぐりながら、遍路路、寺院、石庭、供物、灯籠、石彫仏陀などを独自の詩的な視点で撮影しています。

Ueda Shoji Fine selection "Gone Are the Days"



Ueda Shoji Sand Dune



植田正治 作品精選集《遙かなる日記》

植田正治のシリーズ《遙かなる日記》より白黒作品6点を収めたポートフォリオです。深いシャドウからハイライトにかけての滑らかな階調、独特の暖かみ、手作業による印刷の特性を生かした職人技など、便利堂のコロタイプならではの風合いによって表現されたプリントとなっています。

2006年制作
6点の白黒コロタイププリント
¥6,600(税込)



植田正治(1913-2000)

鳥取県生まれ。19歳の頃上京しオリエンタル写真学校に学んだのち帰郷し植田写真場を開業。山陰の空・地平線・そして砂丘を背景とした演出写真は「植田調」と呼ばれる。代表作は《童暦》《砂丘シリーズ》。



植田正治 砂丘

植田正治は、日本で最も著名なモダニスト写真家の1人として世界的に知られています。植田はシュルレアリスム(超現実主義)のイメージを写真に取り入れることが多く、故郷の鳥取砂丘にて、しばしば妻と4人の子供たちを主題として作品を残しましたが、そのシリーズのみで構成されているのがこのポートフォリオです。

2017年制作
6点の白黒コロタイププリント
¥6,600(税込)





2019年制作
8点の白黒コロタイププリント
¥7,700 (税込)



須田一政 「無名の男女 東京・一九七六～八年」より

日常に潜む闇や妖しさなどを写し出すスナップ写真を得意とした須田一政が撮り下ろし、1976～78年にかけて東京で撮影されたのが《無名の男女》というシリーズでした。雑誌『カメラ毎日』の1978年11月号の誌面にて49点がまず発表され、同時期にニコンサロン（新宿・銀座）での展示が行われました。このポートフォリオは、同シリーズから8点をセレクトしプリントしました。

須田一政 (1940-2019)

東京都生まれ。1967年から、寺山修司主宰の劇団天井桟敷の専属カメラマンとして活躍。以降フリーランスの写真家として活動の場を移し、97年に写真集『人間の記憶』で第16回土門拳賞を受賞した。



安井仲治 安井仲治写真作品集

安井仲治は、関西の同僚とともに「新写真運動」を始めた20世紀前半の日本で最も著名な写真家のひとりです。ピクトリアリズムからフォトモンタージュなど、さまざまなスタイルによる最先端のアプローチを行なうなど、戦前のモダニズム写真の黄金時代を代表する写真家として知られています。このポートフォリオに収められている写真は、安井が亡くなった年に便利堂で制作した遺作集に掲載されたものであり、その中でも最も有名な作品によって構成しています。

安井仲治 (1903-42)
大阪府生まれ。浪華写真倶楽部、丹平写真倶楽部の主要メンバーとして関西を中心に活動し、戦前のモダニズム写真の興隆期を担う傑作を残す。代表作は『凝視』『唄ふ男』『窓』など。

2015年制作
6点の白黒コロタイププリント
¥6,600 (税込)



森村泰昌 《卓上のバルコ・ネグロ》より、1984

森村泰昌が名画シリーズに取り組む以前の初期写真として知られるのがこの《卓上のバルコネグロ》です。このシリーズは、森村のスタジオにあったテーブルを使って、食器や衣類など日常使いの静物が撮影されています。このタイトルは、森村のお気に入りである女性シンガーであるアマリア・ロドリゲスが演奏したポルトガルのフォークソング《バルコネグロ》に由来しています。

森村泰昌 (1951-)
大阪府生まれ。34歳頃、自らがゴッホの自画像になるセルフポートレイトを発表。以後、現在まで「自画像的作品」をテーマに、国内外で活躍している。代表作は《女優になった私》《なにものかへのレクイエム》。

2015年制作
5点の白黒コロタイププリント
¥6,600 (税込)





ロベール・ドアノー Selected Works

フランスの国民的写真家ロベール・ドアノーは、パリの庶民の日常をとらえた写真で高い評価を得て、今もなお世界で最も愛され続けている写真家のひとりです。ドアノーは写真家人生の中で多くの音楽家と出会い、多大な影響を受けていました。パリの街角に流れていたシャンソンやジャズなど様々な音楽シーンを題材に撮影したドアノーのウィットに満ちた作品は、パリのエスプリが感じられるポートフォリオに仕上がっています。

Robert Doisneau ロベール・ドアノー (1912-94)
 仏パリ郊外生まれ。1949年にヴォーグ誌と契約を結び、ファッション写真を撮る傍ら、パリの街中を歩き回り撮影を行う。ピカソやジャン・コクトーなど多数のアーティストたちのポートレートも手掛けた。

2021年制作
 6点の白黒コロタイププリント
 ¥7,700 (税込)



堀内誠一 音楽の肖像

堀内誠一による《音楽の肖像》からの作品で構成されたポートフォリオです。古典的、ロマン派、印象派、モダニズムを代表するヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーベン、エリック・サティ、モーリス・ラヴェル、イーゴリ・ストラヴィンスキー、ダリウス・ミヨーなど、欧州のクラシック音楽を牽引した重要な作曲家たちのポートレートが堀内の水彩による原画を忠実に再現しました。このポートフォリオには堀内の友人であり詩人の谷川俊太郎氏による書き下ろしのテキストも含まれています。

2021年制作
 6点のカラーコロタイププリント
 ¥10,450 (税込)

堀内誠一 (1932-87)
 東京都生まれ。14歳で伊勢丹の宣伝課に入社。企業広告、ファッションショー、「週刊平凡」「平凡パンチ」のファッションページのディレクションを手がけると同時に、挿絵と絵本の仕事を始める。



コロタイプを知りたい
やってみたい、が
もっと身近に



BENRIDO
COLLOTYPE ACADEMY

コロタイプを学び、実践できる場を提供したい
そんな思いから、便利堂では
定期的開催するワークショップ
《コロタイプアカデミー》を開講しています。
初心者向けの体験コースから
作品づくりに取り組む専門レベルまで
受講者に合わせたプログラムを
経験豊かな講師が指導します。

Photo by Bijon Abelein



講師 山本 修

コロタイプ研究所所長・マスタープリンター
コロタイプアカデミーでは、私がこれまで
に学び習得した技や経験と知識からコロ
タイプ技法をわかりやすく伝授し、新
鮮な気持ちでみなさんとともに楽しみたい
と思っています！





COLLO-FULL

Enjoy Making Collotype Prints!

コロタイププリントを
もっと手軽に
お手元へ

〈コロフル〉は、コロタイプを手軽に注文できるオーダーサイトです。
「自分の写真をコロタイプでプリントすると、どんな仕上がりのだろう?」
「コロタイプでプリントを作ってみたいけど、高いのでは?」
「どうやって注文したらいいかわからない」
といった方々に、おためし感覚でご利用いただけるシステムです。
商品のラインアップは「名刺サイズ」「ポストカードサイズ」
「8×10 インチサイズ」の3種類です。



Product List

名刺サイズ

個性的な名刺でごあいさつ

セルフポートレートやお気に入りの写真・絵をプリントした、とびきりの名刺をつくりませんか? 鮮明な活字やロゴはもちろん、書や鉛筆で描かれた手書きのサインも美しくプリントできます。名刺、ショップカード、手札サイズのプリントとしてなど、さまざまなシーンでご活用いただけます。

【価格例】

片面 100 部 27,000 円 (税・送料別途) ~



ポストカードサイズ

アイデア次第で使い方はいろいろ

ポストカードをはじめ、ミニ額絵、記念品など、アイデア次第で使い方はいろいろ。コロタイプを用いれば、他にない独自の表現力のある素敵なカードが作れます。四季折々のご挨拶や、人生の一場面を描き出す写真をコロタイプで仕上げたら、きっとたくさんの方に届けたくなるでしょう。

【価格例】

片面 100 部 34,000 円 (税・送料別途) ~



8x10 インチサイズ

後世にのこしたい家族の肖像にも

見応え十分な 8x10 インチ (20.3 × 25.4cm) のコロタイププリントが制作できます。素敵なフレームに入れたら、プライベートスペースやオフィスの壁面に映える作品になること、間違いありません。保存性の高いコロタイプなら、日常的な展示や後世にのこしたい家族の肖像にもぴったりです。

【価格例】

片面 10 部 44,500 円 (税・送料別途) ~

